

「プロ野球選手のキャリアトランジション に関する研究」

桜美林大学・澤井ゼミ○中里 和徳 橘田 和樹 宮崎 大樹

序論

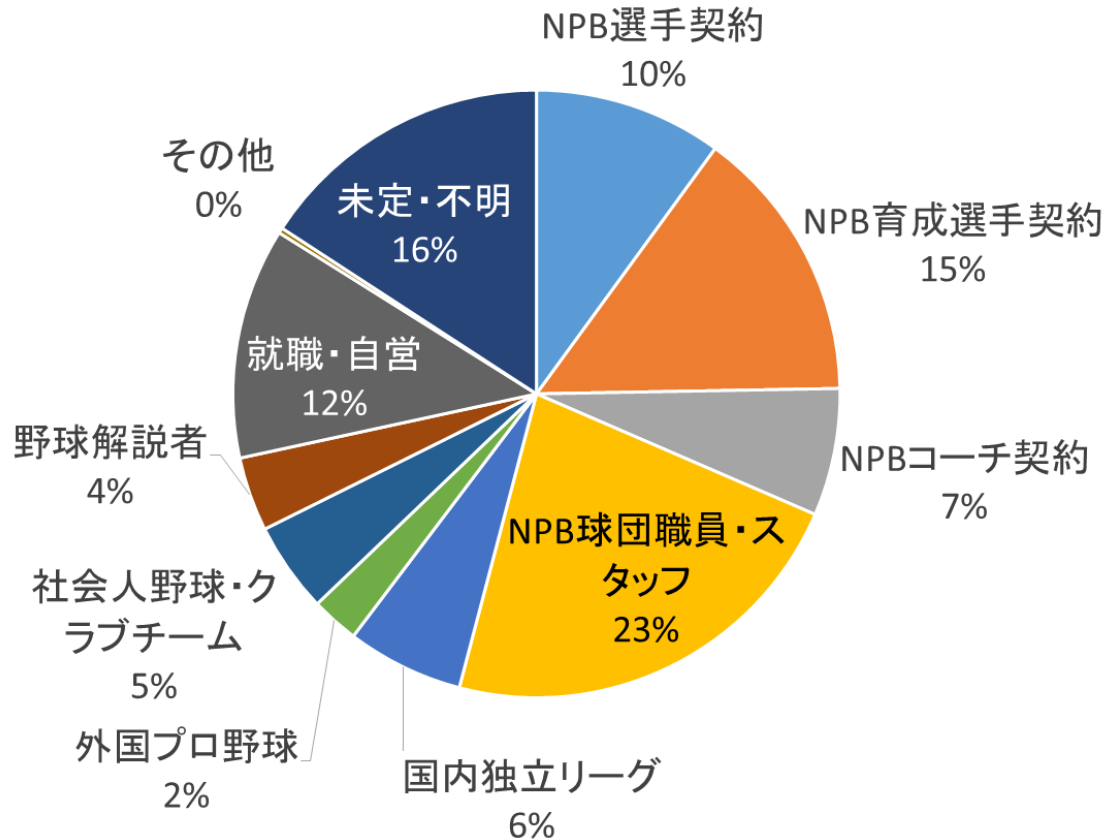
序論：儂いプロ野球選手のキャリア

- ▶ 2016年度NPBにおける1球団の支配下選手は822名、1球団あたり68.5名、育成選手は75名で1球団平均6.3名。
- ▶ 一方、2015年の一般ドラフトで88名(1球団あたり7.3名)、育成ドラフトで28人(1球団あたり2.3人)、合計**116人**が入団し、自由契約・任意引退選手156人、25%がNPBに再契約されるので**117人**がプロ野球を去った。
- ▶ 高校、大学、社会人という入団経路を考慮しないとき、選手寿命の平均は**29.8歳**。
 - ▶ 鈴木裕輔「日本プロ野球におけるセカンドキャリア形成の現状と課題」ベースボールジャーナル 野球文化学会論叢(9), 178-186, 2008
- ▶ 高校卒業後にプロ野球に入団する選手の**3割**が一軍への出場経験のないまま引退し、一軍在籍経験のない選手の平均在籍年数は**4.02年**。
 - ▶ 黒田次郎ほか「日本プロ野球のドラフト制度に関する研究(1)」運動とスポーツの科学、Vol10(1)、2004、pp27-36



序論：プロ野球選手の引退後の進路

「2015年戦力外選手／現役引退選手の進路調査結果」
日本プロ野球機構



序論：安定を求めるプロ野球選手

- ▶ NPBのアンケート調査(2015年)によると、
 - ▶ 引退後のキャリアに不安を感じている若手プロ野球選手が72.7%で増加している。
 - ▶ 「一般企業の会社員」をやってみたいとする回答が63%で増加している。
- 「若手プロ野球選手「セカンドキャリア」に関するアンケート」日本プロ野球機構、2015 <http://npb.jp/npb/careersupport2015enq.pdf>
- プロ野球引退後は安定求める…若手の6割超が会社員希望：朝日新聞デジタル
<http://www.asahi.com/articles/ASJ1X4Q0FJ1XUTQP00Q.html>



序論と目的

- ▶ 球団職員・スタッフになる選手が多い。
- ▶ 企業就職への希望は増えているが数は少ない。
 - ▶ どのような選手が球団や一般企業に就職しているかはわからない。
 - ▶ それまでの経歴との関係がわかれば何かプロ野球に進む選手にアドバイスができるかもしれない。
 - ▶ 佐々木千隼先輩(千葉ロッテドラフト1位)にアドバイスしたい！
- ▶ 目的
 - ▶ プロ野球選手の経歴と引退後のキャリアの関係を調べ、プロ野球選手のキャリアトランジションに関する提言を行う。





方法

方法

- ▶ 日本プロ野球機構(NPB)ホームページの「公示」ページから、2010～2015年の「自由契約選手」「任意引退選手」を抽出
 - ▶ <http://npb.jp/announcement/backnumber.html>
 - ▶ 2010～2015年としたのは前出の「引退後進路調査」の期間と合わせたため。また、近年プロ野球選手のセカンドキャリアが注目されていて比較的データがあるため。
 - ▶ NPBや独立リーグ、海外プロ野球に行った者(現役プロ)と外国人選手は除く。
 - ▶ NPBホームページで各選手の経歴(学歴、社会人経験、独立リーグ経験、ドラフト順位)を調べる。
 - ▶ そのほかインターネットで選手の甲子園出場の有無、引退後の進路を調べ、プロ野球引退選手データベースを作成
 - ▶ 入団までの経路(大学、社会人野球、独立リーグ)、ドラフト順位、引退年齢、甲子園出場経験と引退後のキャリアとの関係をクロス集計。調整済み残差で傾向を把握。分析にはIBM SPSSvsr.
 - ▶ また、プロ野球球団職員ならびに大学スポーツ関係者にメールでプロ野球選手の引退後のキャリアなどについて話を聞いた。
-



結果

NPB自由契約選手・任意引退選手の進路（2010～2015年）

	度数	パーセント
球団従業員	85	20.2
球団従業員（練習補助・用具係）	56	13.3
野球指導者（NPB）	56	13.3
野球指導者（NPBアカデミー）	10	2.4
野球指導者（独立リーグ）	19	4.5
野球指導者（その他）	7	1.7
社会人野球（企業チーム）	22	5.2
社会人野球（クラブチーム）	8	1.9
企業就職（一般企業）	74	17.6
企業就職（野球教室・塾）	12	2.9
自営業（解説者ほか野球関係）	43	10.2
自営業（その他）	21	5.0
進学	7	1.7
合計	420	100.0

NPB自由契約選手・任意引退選手の進路（2010～2015年）

- ▶ NPB・独立リーグなどのコーチ、球団従業員、社会人野球、野球教室・塾などへの就職、野球解説者など、「**野球関係**」に進む者が75%に上る。

	度数	(%)
野球関係	318	75.7
野球以外	102	24.3
合計	420	100.0

クロス集計の結果

1. 引退時年齢との関係

- ▶ 「一般企業への就職」は引退時の年齢が30歳未満の者が多く、35歳以上ではほとんどいなかった。
- ▶ 「球団従業員(練習補助・用具係)」は、それ以外の「球団従業員」(フロント、スカウトやマネージャ)よりも引退時年齢が若い元選手がなっていた。
- ▶ 「野球指導者(NPB)」は、引退時年齢35歳以上の者が多く、「NPBアカデミーの指導者」は35歳未満の者が多かった
- ▶ 社会人野球の企業チームに入るのは、引退年齢が30歳未満の者が多かった。

2. 学歴との関係

- ▶ 「球団従業員」になるのは「大卒」が多かった。

3. 甲子園経験

- ▶ 「甲子園経験」は引退後の進路と関係なかった。
-



クロス集計の結果

4. 独立リーグ経験

- ▶ 独立リーグを経験した者は、引退後一般企業に就職する者が多かった。

5. ドラフト順位との関係

- ▶ 育成ドラフトで入団した選手は引退後に一般企業に就職する者が多かった。
- ▶ 「球団従業員」「球団従業員(練習補助・用具係)」になる者は、ドラフト下位(5位以下)の者が比較的多かった。
- ▶ 「自営業(野球解説者)」「野球指導者(NPB)」「野球指導者(独立リーグ)」になる者は、ドラフト上位(1、2位)の者が多かった。野球のコーチは知名度や選手としての成功経験がものを言う世界の世界のようである。一方で「野球指導者(NPBアカデミー)」になる者は、ドラフト下位の者が多かった。



インタビューの結果

1. 球団従業員・スタッフは契約社員で1年契約が多いが60歳までは契約更新してもらえる。
 2. スカウト、スコアラー、用具係、マネージャ、打撃投手、ブルペン捕手（練習補助員）はそれぞれ仕事を兼務する場合があります、またローテーションしたりする。
 3. 打撃投手などの現場のスタッフは解雇される場合がある。
 4. 球団従業員への採用条件は「人柄」。
 5. コーチ、スカウトなど野球人材としてプールしておきたい人をスタッフとして残すことがある。
 6. アカデミー指導者はプロ選手指導者や球団従業員より待遇はよくない。
 7. 就職はコネで決まる場合が多い。
-



球団従業員（練習補助・用具係）の待遇

- ▶ 打撃投手などの練習補助要員の不安定な雇用については入来祐作「用具係 入来祐作 ～僕には野球しかない」にも描かれている。
- ▶ 入来祐作（2014）用具係 入来祐作 ～僕には野球しかない 講談社



仕事の探し方も福利厚生も分からず……プロ野球選手「再就職」の苦労 | THE PAGE 2015.10.24

▶ 元読売ジャイアンツ・川口寛人さん

- ▶ 「雇用形態や社会保障の有無などを確認して自分で会社を探し、試験を受ける元選手はほとんどいない」
- ▶ 「誰かの紹介、人のつながりで再就職先を決める人はかなり多い」

▶ 元読売ジャイアンツ・和田凌太さん

- ▶ 「野球を続けたいという人が多いですが、引退後の球団の仕事は1年契約がほとんどです。それでも、野球でお金がもらえるならそれでいいと思ってしまふんです。」

まとめ

1. プロ野球選手の引退後は「野球関係」に進む者が多い。
 2. 一般企業の就職も野球の恩師や先輩などコネが多い。
 3. 球団従業員になるのはむしろドラフト下位の大卒選手。
 4. 一般企業への就職はドラフト下位で引退時年齢が30歳以下の元選手。引退時年齢が35歳以上だと一般企業への就職はほとんどない。
 5. ドラフト上位で引退時の年齢が35歳を超えるような選手は野球解説者やNPBや独立リーグでのコーチになっている。
 6. ドラフト下位で野球指導者になる場合はアカデミーが多い。
-



提言

プロ野球選手のキャリアトランジションについて

▶ 提言先: NPB・選手会

▶ 提言内容: 野球教室など野球事業を行う会社をつくり引退後の選手を雇用する。

- ▶ 主なターゲットは高卒で引退時30歳以上のあまり有名でない元選手。
- ▶ 野球を仕事にしながら就職支援も行う。

▶ 提言理由:

- ▶ 野球にこだわる人が多いが、野球関係の職は必ずしも安定しておらず、選手は不安を抱えている。野球の仕事をしてしながら次のステップに進む準備をする。また、「ベースボール型」の体育実技必修化と2020年オリンピックパラリンピックでの種目化も追い風となっている。(次スライド)

▶ 資金:

- ▶ NPB・・・テスト事業として野球教室事業を行い、原資を稼ぐ。
- ▶ 選手会・・・成功した元選手などから寄付や投資資金を集める。
- ▶ 球団の親企業・・・社会貢献事業として寄付を集める。
- ▶ 一般の企業、個人から寄付を集める。

▶ 事業としての成功可能性(次スライド)



就活の場としての独立リーグ

▶ 元独立リーガー・西本泰承さん(30歳)

▶ 引退後、地元和歌山で事務のインストラクター

▶ 「だから『いつ辞めてもいい』って言ったでしょう。ここ数年は『就活』のために野球していたようなもんですから」

▶ 「その後はセカンドキャリアのためにプレーしていたようなもんです。だからいい仕事が見つかったらいつでも辞めるつもりでした。今シーズンは、3月まで古巣のファイティングドッグスにお世話になって、4月からアメリカでプレーするつもりだったんですよ。その準備を故郷の和歌山でしているときに、いいお話をいただいたんで、就職することにしたんです。」

事例1 元選手による野球教室事業

1. 土屋健二氏（元横浜）

- ▶ アスリートマネジメント会社「M.H.B」を立ち上げ、選手による野球教室などを開催。

2. 光原逸裕氏（元オリックス、ロッテ）

- ▶ 名古屋市名東区や長久手市でベースボールスクール LightFieldを開き代表を務めている。

3. 吉川昌宏氏（元ヤクルト）

- ▶ 引退後は地元高知でベースボール＆スポーツアカデミー「EhangeSports」を設立。
-
- 

事例2 NPBによる野球教室事業

- ▶ 教員向のための「ベースボール型」指導者講習会
 - ▶ 平成23年度から全面実施された学習指導要領においてバットとボールを使った球技「ベースボール型」が、全国の小中学校の体育授業で必修化となったことを受け、日本プロ野球選手会の協力のもと、日本野球機構が開始。
 - ▶ 主催：日本野球機構、後援：文部科学省、協力：日本プロ野球選手会
 - ▶ 対象：関東近郊の小中学校教員200名
 - ▶ 場所：西武ドーム
 - ▶ 指導
 - ▶ プロ野球OB選手（2014年は岡村隆則氏（元西武）、宮本和知氏（元読売）、田口壮氏（元オリックス）、宮本慎也氏（元東京ヤクルト）ら9名）
-

事例3 自治体による野球教室事業

▶ 東京都スポーツ博覧会 ベースボールクリニック

- ▶ 主催: 東京都、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
- ▶ 対象: 小学生150名
- ▶ 場所: 駒沢公園公式野球場
- ▶ 指導: 吉井理人、水上善雄、佐伯貴弘、大友進(2013年)
- ▶ 内容: プロ野球選手による野球指導。最後に全員で記念撮影、サイン会。

